

第 30 回えいが部「明日の記憶」（2006年）

家庭も省みず仕事に生きる 49 歳、広告代理店のやり手営業マン、佐伯雅行。仕事においては大きなクライアントとの契約が決まり、プライベートにおいては娘の結婚が決まる、と順風満帆に見えた彼を突如、物忘れが激しくなる、めまい、幻覚といった不可解な体調不良が襲う。妻・枝実子に促され、渋々忙しい仕事の合間を縫って病院を訪れ診察を受けた結果、医師から若年性アルツハイマー病という診断を下される。知らないうちに自分の体内で起こっていた受け止めがたい現実と直面した彼は、錯乱し自暴自棄になり、病院の屋上から飛び降りようとするが、医師の必死の説得により何とか思いとどまる。そして、屋上から階下へ戻る階段の途中で座り込み、枝実子と話し合い、2人は涙を流しながらも病氣と向き合う覚悟を決める。

<スタッフ>

監督：堤幸彦

1955 年三重県四日市市に生まれ、6 歳のときに父親の仕事の都合で愛知県名古屋市に引っ越し 18 歳まで名古屋で過ごす。はっぴいえんどに憧れて上京を希望し、法政大学へ進学するも学生運動にも参加し 3 年の頃にそれが終わり、抛りどころを失い中退する。その後偶然見つけた東放学園専門学校の新聞記事をきっかけに芸術科に入学し、放送業界に入る TBS のテレビディレクターから出発し、CM やプロモーションビデオの演出を手掛けながら、1986 年、秋元康と会社「SOLD OUT」を立ち上げる。

- ・バカヤロー! 私、怒ってます 第 4 話「英語がなんだ」(1988 年)
- ・HOMELESS (1991 年、オノ・ヨーコ主演)
- ・金田一少年の事件簿 上海魚人伝説 (1997 年)
- ・新生トイレの花子さん (1998 年)
- ・ケイゾク/映画 Beautiful Dreamer (2000 年)
- ・溺れる魚 (2001 年)
- ・トリック劇場版シリーズ
- ・20 世紀少年 3 部作
- ・BECK (2010 年)
- ・悼む人 (2015 年 2 月)
- ・十二人の死にたい子どもたち (2019 年 1 月)

原作：荻原浩

- ・最上俊平シリーズ
 - ハードボイルド・エッグ (1999 年 10 月 双葉社)
 - サニーサイドエッグ (2007 年 7 月 東京創元社)
- ・噂 (2001 年 2 月 講談社 / 2006 年 3 月 新潮文庫)

- ・僕たちの戦争 (2004年8月 双葉社)
- ・明日の記憶 (2004年10月 光文社 / 2007年11月 光文社文庫)
- ・さよなら、そしてこんにちは (2007年10月 光文社 / 2010年11月 光文社文庫)
- ・ストロベリーライフ (2016年9月 毎日新聞出版)

<キャスト>

渡辺謙(製作総指揮)

- ・瀬戸内少年野球団 (1984年、日本ヘラルド映画、篠田正浩 監督) - 中井鉄夫 役
- ・海と毒薬 (1986年、日本ヘラルド、熊井啓 監督) - 戸田 役
- ・(海外) ラストサムライ The Last Samurai (2003年、ワーナー・ブラザーズ)
- ・北の零年 (2005年、東映、行定勲 監督) - 小松原英明 役
- ・(海外) バットマン ビギンズ Batman Begins (2005年、ワーナー・ブラザーズ)
- ・(海外)硫黄島からの手紙 Letters from Iwo Jima (2006年、ワーナーブラザーズ)
- ・沈まぬ太陽 (2009年、角川映画、若松節朗 監督)
- ・(海外)インセプション Inception (2010年、ワーナー・ブラザーズ)
- ・はやぶさ 遥かなる帰還 (2012年、東映、瀧本智行 監督) - 山口駿一郎 役
- ・(海外)GODZILLA ゴジラ Godzilla (2014年、ワーナー・ブラザーズ)
- ・許されざる者 (2013年、ワーナー・ブラザーズ映画、李相日 監督)

樋口可南子

- ・戒厳令の夜 (1980年) - 秋沢冴子 役
- ・北斎漫画 (1981年) - 直子 役
- ・卍 (1983年) - 志藤光子 役
- ・ときめきに死す (1984年) - 梢ひろみ 役
- ・ベッドタイムアイズ (1987年) - キム 役
- ・アキレスと亀 (2008年) - 倉持幸子 役
- ・愛を積むひと (2015年) - 小林良子 役

2006年に映画化された。渡辺謙の映画初主演の作品である。渡辺は2004年11月、立ち寄ったハリウッドの書店でたまたま手にとったこの本を読み、自身が封印していた白血病の闘病生活の記憶が怖いくらいによみがえってきたと同時に、温かさを感じた[4]。そして原作者である荻原浩に映画化を熱望する手紙を直接送ったのが映画化のきっかけである[4]。映画のスタッフロールでは、渡辺謙は「エグゼクティブ・プロデューサー」とクレジットされている。渡辺は、難病を扱う作品であっても辛く悲しいだけの物語にはしたくない、作品を作るなら現代を切り取る能力がなければと考え、以前『池袋ウエストゲートパーク』で一緒に仕事をした堤幸彦を監督に指名した。

第30回日本アカデミー賞で作品が優秀作品賞に選ばれ、その他渡辺謙が最優秀主演男優賞、樋口可南子が優秀助演賞、大島ミチルが優秀音楽賞を受賞した。